

技能人材*に教えたい人のための「就労者に対する日本語教師初任者研修」

ーゲンパのニーズに対応した実践的指導法とコースデザイン能力を身につけるー

AOTS 研修プログラム科目一覧

※以下の情報は一部変更の可能性もございます。

日程・時間	科目名	講師/所属等	研修目的・内容
10/7(土) am9:00- pm12:30	オリエンテーション	AOTS 教師研修事務局	◎オリエンテーション(日程、修了要件、各自の課題意識・目標設定)
	就労者に対する日本語教育概論	杉山充 AOTS 日本語教育センター センター長	◎就労者に対する日本語教育の特徴を理解する。 ◎AOTS の研修を例に就労者に対する日本語教育をイメージする。
	外国人の受け入れ政策と日本語教師	神吉宇一 武蔵野大学 教授	◎外国人受け入れ政策、日本語教育推進法等、現在の動向等に目を向ける。 ◎就労者に対する日本語教育を行う日本語教師の役割について考える。
	外国人就労者に関わる制度	折茂純哉 ACROSEED マネージャー	◎外国人就労者の制度の基礎知識(在留資格・条件など)を理解する。 ◎外国人就労者受け入れ制度の課題、外国人就労者受け入れ企業で生じている問題(メンタルヘルス等含む)について知る。
10/14(土) am10:50- pm12:30	職種・職位によって求められる日本語教育 ー制度における日本語能力要件ー	杉山充 AOTS 日本語教育センター センター長	◎制度の中で定められている日本語教育の要件や企業側に求められている支援について理解する。 ◎日本語能力を測るための試験、技能を評価する試験の概要を知り、日本語教師に何が期待されるか考える。
	就労現場における異文化受容・異文化適応	近藤彩 昭和女子大学大学院 教授 文学研究科 研究科長	◎就労現場での文化や習慣の違いによって生じる問題や場面を理解する。 ◎企業・就労者に対して、どのような異文化適応支援が必要か考える。
10/21(土) am9:00- pm12:30	技能実習・特定技能のための仕事・生活 の日本語教育 ー教材『あたらしいじっせんにほんご』を例 にー	新野佳子 国際日本語普及協会(AJALT)	◎対象者別・能力別の指導法・教材について理解する。 ◎各教材を使った指導方法、活用のヒントなどから、学習者に適した指導法を考える。 ◎ICT ツール(アプリ・動画・e ラーニング)に触れ、効果的な活用方法を考える。
	生活・就労者の日本語教育 ー地域日本語教室で学ぶ技能人材ー	萬浪絵里 千葉市国際交流協会 文化庁委託日本語教育事業コ ーディネーター	◎就労者は「生活者」の側面も持つため、生活者としての日本語教育への理解を深める。 ◎地域日本語教室の事例をもとに、地域日本語教室に来る就労者が何を求めているかや、地域社会と多文化共生について考える。
	現場の企業担当者の声を聞く ー技能実習生・特定技能・技術研修生受 け入れ企業ー	技能実習・特定技能・技術研修 生等の受け入れ企業担当者	◎外国人就労者を受け入れている企業の方を招き、外国人就労者受け入れの実態や課題を知る。 ◎企業側が求めている日本語教育から、日本語教師としてできることを考える。
	外国人就労者の声を聞く ー技能実習生・特定技能人材・技術研修 生ー	技能実習生・特定技能人材・技 術研修生等	◎就労者(特に技能人材)から、就労のきっかけ、就労してからの気づき、就労開始前後・現在の日本語学習、将来についての話を聞く。 ◎彼らの背景や日々感じていることを理解し、就労者に対して必要な日本語教育の内容や彼らとの接し方を考える。

10/28(土) am9:00- pm12:30	【事例研究】外国人介護人材の就労と日本語教育	白井孝子 東京福祉専門学校 副学校長	◎外国人介護人材受入れの背景、様々な制度・在留資格を理解する。 ◎介護老人福祉施設での1日の生活、外国人介護人材の活躍の様子を理解する。 ◎介護職種を例に、職種別日本語教育をどう行うか考える。
	【事例研究】介護人材向けの専門日本語教育 -介護の就労者向けウェブ教材「にほんごをまなぼう」を例に-	小林亨 日本介護福祉士会 国際介護人材支援チーム	◎対象者別・能力別の指導法・教材について理解する。 ◎各教材を使った指導方法、活用のヒントなどから、学習者に適した指導法を考える。 ◎ICTツール(アプリ・動画・eラーニング)に触れ、効果的な活用方法を考える。
	現場の企業担当者の声を聞く -EPA 介護福祉士候補者受け入れ施設-	EPA 介護福祉士候補者 受け入れ施設担当者	◎外国人介護人材を受け入れている施設の方を招き、外国人介護人材受け入れの実態や課題を知る。 ◎施設側が求めている日本語教育から、日本語教師としてできることを考える。
	外国人就労者の声を聞く -EPA 介護福祉士候補者-	EPA 介護福祉士候補者	◎外国人介護人材から、就労のきっかけ、就労してからの気づき、就労開始前後・現在の日本語学習、将来についての話を聞く。 ◎彼らの背景や日々感じていることを理解し、就労者に対して必要な日本語教育の内容や彼らとの接し方を考える。
11/11(土) am9:00- pm12:30	職種別の日本語の指導法 -ウェブ教材/アプリ「げんばのにほんご」(外国人技能実習機構)を例に-	飯塚知子 日本語教育専門家	◎対象者別・能力別の指導法・教材について理解する。 ◎各教材を使った指導方法、活用のヒントなどから、学習者に適した指導法を考える。 ◎ICTツール(アプリ・動画・eラーニング)に触れ、効果的な活用方法を考える。
	技能人材と語彙学習 -どんな言葉の学習が必要か考える-	飯塚知子 日本語教育専門家	◎技能人材にとって必要な言葉とは何か理解する。 ◎ある職種を想定した学習語彙リストを作成する。作成にあたり、形態素解析、表計算ソフトを使った語彙頻度の集計、語彙の取捨選択の方法などを身につける。
	就労現場でのコミュニケーション能力を高めるための指導法 -教材『ゲンバの日本語』を例に-	AOTS 日本語教育センター	◎対象者別・能力別の指導法・教材について理解する。 ◎各教材を使った指導方法、活用のヒントなどから、学習者に適した指導法を考える。 ◎ICTツール(アプリ・動画・eラーニング)に触れ、効果的な活用方法を考える。
	技能人材と会話学習 -コミュニケーションストラテジーが学べる会話を考える-	飯塚知子 日本語教育専門家	◎就労先でまず必要とされる日本語や、日本語を使ってどんなやり取りをするかを知る。 ◎コミュニケーションストラテジーを意識し、ある職種を想定した会話学習素材を作成する。
11/18(土) am9:00- pm12:30	コミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法 -AOTSでの技術研修生向け日本語研修をモデルにして-	AOTS 日本語コーディネーター	◎就労現場で求められるコミュニケーション能力を短期間で養成するための教授法をAOTSの実践例を通して学ぶ。 ◎各受講者の教育現場でどのように応用可能かを考える。
	就労者に対する自律学習支援とスローラーナーへの対応 -AOTSでの技術研修生やEPA候補者への実践を事例にして-	AOTS 日本語コーディネーター	◎就労者の増加に伴い、日本語学習に困難を抱える者、日本語の習得がなかなか進まない者(スローラーナー)が増えている現状を理解する。 ◎AOTSの日本語研修を事例として、スローラーナーへの働

			きかけや自律学習支援を理解し、教師として彼らにできる支援を考える。
	就労者の日本語学習に対する評価 ー行動能力目標とパフォーマンス評価ー	AOTS 日本語教育センター	◎「日本語教育の参照枠」を就労者に対する日本語教育へ応用する方法について AOTS での事例を通して把握する。 ◎就労現場で必要な行動能力目標とそれに対応するパフォーマンス試験について AOTS での事例をモデルケースとして各受講者の教育現場でどう応用できるかを検討する。
	企業に伝わる報告書作成	AOTS 日本語コーディネーター	◎企業や職場関係者(=非日本語教育専門家)に就労者の日本語学習状況や学習の成果、継続学習のアドバイスとして何を伝えるか、どうすれば伝わるかを理解する。 ◎書かれた報告書を読み、非専門家に伝わるかどうか検討し、修正を行う。
12/2(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習 (導入)	澤田幸子 合同会社おぞら日本語サポート 「みんなの日本語初級 第2版」、 「みんなの日本語中級」執筆協力者	★ある就労者を想定して、日本語教育コースをデザインする。 ◎コースデザインとは ◎技能人材のニーズ、レディネスの分析・検討 ◎目標の設定
	技能人材向けのコースデザイン 演習	澤田幸子	
12/9(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習	小谷昌彦 合同会社おぞら日本語サポート 代表社員	◎技能人材への日本語教育内容の検討 ◎評価・フィードバック方法の検討 ◎シラバス・カリキュラム作成
12/16(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習	澤田竜人 ECC 国際外語専門学校 留学生事業部	
12/23(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習 (発表)	副学科長兼教務課・進路課責任者 高馬絢子 大阪観光大学別科伊丹サテライト校 教務部長	◎各グループの発表 ◎作成したコースデザインの共有・意見交換
	研修の振り返り、ネットワークづくり	杉山充 AOTS 日本語教育センター センター長	◎初回に設定した目標について自己評価を行う。各回の研修内容を振り返り学びを整理する。 ◎今後も交流や情報交換ができるようネットワークを作る。

*本研修プログラムでは、技能実習、特定技能、特定活動(EPA 候補者等)、技術研修生などの外国人就労者を「技能人材」と呼びます。